

1

はじめに

とよたSDGs まるわかり白書とは？

2015年に国連で採択されたSDGsは、目標年である2030年まで残り5年を切りました。

本書は、日本全国の中でもいち早くSDGsに取り組んできた豊田市の状況を、データや様々な取組から振り返る、この10年を凝縮した「まるわかり白書」です。

本書では、国連地域開発センター（UNCRD）を中心に豊田市も開発に携

わった「地方自治体SDGs達成度評価指標」に基づき分析を行います。この指標は、SDGsの169ターゲットのうち地方自治体で対応可能なものについて、56のデータを用いて総合的に評価します。

本書での振り返りが、2030年とその先のミライについて、みなさまに考えていただくきっかけとなれば幸いです。

あらためて

SDGsってなに？

SDGsとは、2015年9月の国連サミットで定められた「持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals）のこと。

2030年までに持続可能で「よりよい世界を目指す」ため、貧困や経済、環境問題などに関する17のゴールと、それを具体化した169のターゲットから構成され、日本を含む世界中が積極的に取り組んでいます。

	1 貧困をなくそう	貧困をなくそう		7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに	エネルギーをみんなに そしてクリーンに		13 気候変動に 具体的な対策を	気候変動に 具体的な対策を
	2 飢餓をゼロに	飢餓をゼロに		8 働きがいも 経済成長も	働きがいも 経済成長も		14 海の豊かさを 守ろう	海の豊かさを 守ろう
	3 すべての人に 健康と福祉を	すべての人に 健康と福祉を		9 産業と技術革新の 基盤をつくろう	産業と技術革新の 基盤を作ろう		15 陸の豊かさも 守ろう	陸の豊かさも 守ろう
	4 質の高い教育を みんなに	質の高い教育を みんなに		10 人や国の不平等を なくそう	人や国の不平等を なくそう		16 平和と公正を すべての人に	平和と公正を すべての人に
	5 ジェンダー平等を 実現しよう	ジェンダー平等を 実現しよう		11 住み続けられる まちづくりを	住み続けられる まちづくりを		17 パートナーシップで 目標を達成しよう	パートナーシップで 目標を達成しよう
	6 安全な水とトイレを 世界中に	安全な水とトイレを 世界中に		12 つくる責任、 つかう責任	つくる責任、 つかう責任			

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

2

豊田市の取組

豊田市のSDGs達成に向けた取組

豊田市は2018年、内閣府によりSDGsの実現に向けた取組を先導的に進める「SDGs未来都市」に選定されて以来、様々な取組を通じてSDGsを推進してきました。

現在は、3期目のSDGs未来都市計画に基づき、取組を進めています。

2018年	・内閣府「SDGs未来都市」選定
2019年	・とよたSDGsパートナー制度開始
2020年	・ミライのフューをつくろうプロジェクト ・とよたSDGsポイント開始
2021年	・SDGs国際会議の開催 “Think SDGs2021” International Conference in Toyota
2022年	・自発的自治体レビュー（VLR）発表* ・とよたSDGsマスター開始
2023年	・豊田市SDGs認証制度を開始 ・「第3回地方創生SDGs金融表彰」を受賞
2024年	・とよたSDGsミライ大学開始
2025年	・「全国市区第4回SDGs先進度調査」で豊田市が全国総合1位 ・「2025国際首長フォーラム」を開催 ・2度目のVLRを発表

*自治体がSDGsの取組状況を自ら評価する報告書

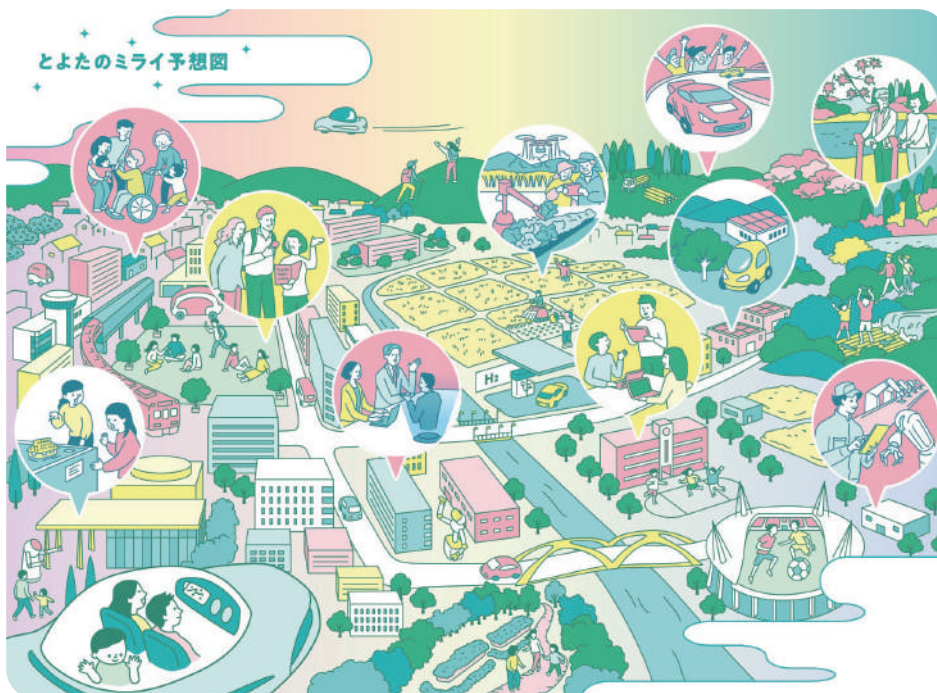
豊田市が目指すミライのすがた

第9次豊田市総合計画では、長期的なまちづくりの方向性を「ミライ構想」として掲げており、その実現を目指してSDGsへの取組を進めています。

同時に、こどもや地域を重視する「とよたローカルゴール」を独自に定めて推進することで、「つながる つくる暮らし楽しむまち・とよた」の実現を目指しています。



※この図に掲載のないゴールも、達成に向けて着実に取り組みます



第9次豊田市総合計画 コンセプトブックより

3

パートナーシップで進めるSDGs

豊田市のSDGsへの様々な取組は、市民、企業、そして国内外の機関・団体とのパートナーシップにより成り立っています。ここでは、その一部をご紹介します。

市民が主役の取組

とよたSDGsマスター

「とよたSDGsマスター」とは、豊田市と市民が共働で制作した、SDGsを通じて豊田市の魅力や課題等を再発見することができるカードゲームです。

現在では100名以上の方が公認ファシリテーターとなり、学校や企業など様々な場でSDGsの学びが広がっています。



<https://www.city.toyota.aichi.jp/shisei/juten/1054234/1054744.html>



とよたSDGsミライ大学

「とよたSDGsミライ大学」は、企業や市民活動団体などが子どもたちに向けてSDGsに関連する多彩な講座を行う取組です。

SDGs達成に向けた取組を実践している大人たちが講師となり、世界で起きている様々な課題を“自分ごと”として捉え、解決に向けて行動するきっかけを子どもたちに届けます。



<https://www.city.toyota.aichi.jp/shisei/juten/1054234/1057444.html>



とよたSDGsポイント

「飲食店で食事を完食する」「環境にやさしい商品を買う」など、SDGsにつながる行動をすると、加盟店や市などから「とよたSDGsポイント」が発行されます。

貯めたポイントは加盟店で利用でき、環境や社会にやさしい生活の実践を促します。



<https://toyota-efami.com/>



とよたSDGsパートナー

「とよたSDGsパートナー」は、SDGsの普及啓発や地域課題の解決に向けて豊田市とともに取り組む企業・団体を登録する仕組みです。

各パートナーは自らの強みを生かした取組を進めるとともに、イベントやセミナー、ワークショップなどを通じて、更なる取組につながる情報交換や市民への発信を行っています。

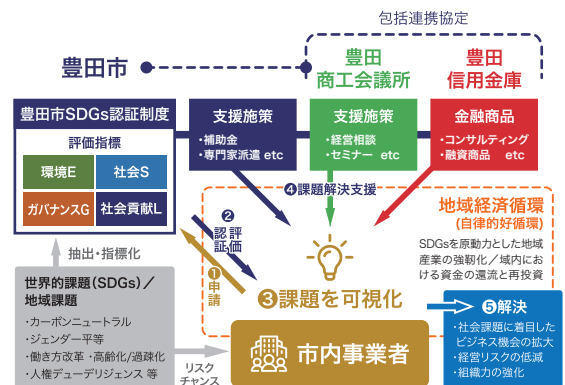


<https://platform-clover.net/project/detail/470>



豊田市SDGs認証制度

この制度は、豊田市が企業のSDGsに関する取組を評価し、結果に応じて認証を与える制度です。企業が自らの取組状況を把握し、持続可能な経営に向けた新たな活動に取り組む契機となることを期待し、2023年度から運用されています。

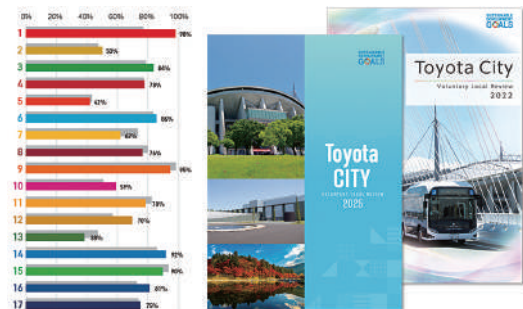


<https://www.city.toyota.aichi.jp/boshu/1052700/index.html>

国内外と連携した取組

自治体SDGs達成度評価指標の開発

国連地域開発センター (UNCRD) が主導する自治体SDGsモニタリング研究会に豊田市も参画し、民間企業や他自治体とともに地方自治体のSDGs達成度を評価する手法を開発しました。この研究会の成果をもとに、豊田市ではSDGsの進捗把握や、VLRの作成を行っています。また、本書でのSDGs達成度の分析も、この指標を活用しています。



国内外への様々な情報発信・情報交換

豊田市は、SDGsに関する取組を国内外の様々な場で発信し、SDGsに取り組む団体や都市との情報交換を進めています。

国連での取組成果の発表や、豊田市での国際会議の開催など多様な機会を通じて取組をPRし、幅広いパートナーシップを築いています。



1 貧困をなくそう



貧困をなくそう

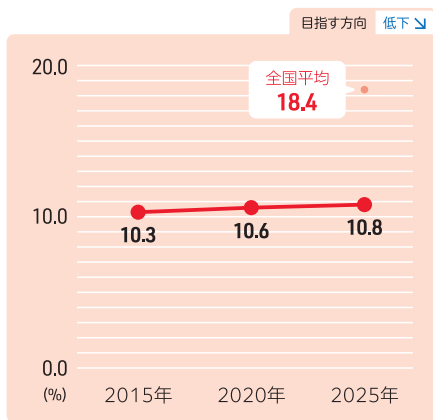
ゴール1は貧困に関するデータです。豊田市ではどの指標も、全国平均よりも良好で達成度が高いゴールです。今後も更なる改善に努めます。

相対的貧困率(%)

【関連するターゲット】

1.1 1.2 1.a 1.b 10.2 10.3

実際の定義ではなく、その代理指標として「世帯所得200万円未満の世帯の、全世帯に対する割合」を示しています。

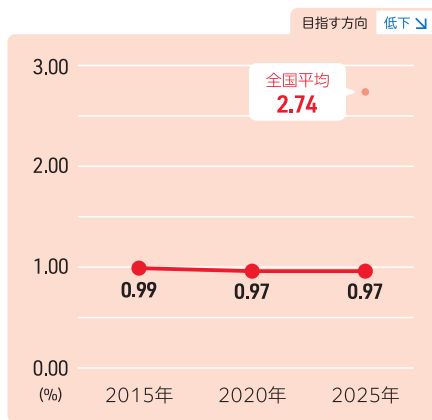


生活保護受給世帯率(%)

【関連するターゲット】

1.2 1.3 1.a

全世帯に対する、生活保護の被保護世帯の割合を示しています。

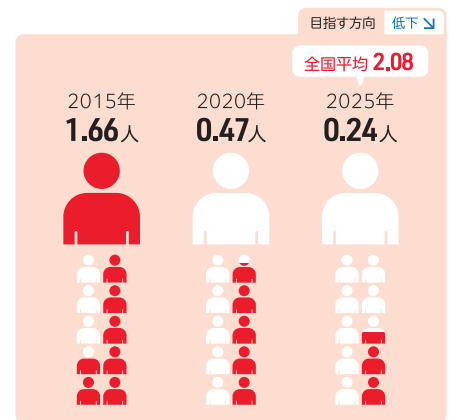


人口10万人当たりホームレス数(人)

【関連するターゲット】

1.3 1.4 1.a 1.b

都市公園、河川、道路、駅舎、その他の施設を特別な理由なく起居の場所とし、日常生活を営んでいる方の割合を示しています。



関連した取組

生活困窮の救済につながる債権管理事務の改革

実施主体 豊田市

<https://www.city.toyota.aichi.jp/kurashi/zeikin/soudan/1032385.html>



市役所では、税金や介護保険料など様々なお金（債権）を市民から徴収していますが、一部は滞納となる未収債権があります。滞納者の中には生活に困っている方もおり、放置すると生活困難が深刻化し、再建が難しくなる可能性が高まりますが、以前は根本的な生活苦への対応が難しい状況でした。そこで豊田市は組織体制を見直し、原則として債権回収を一元化しました。未収債権に対しては市で対応するものと民間の弁護士に委任するものとに分け回収を進めるとともに、

福祉部署とも連携して支援を行います。

このような改革の結果、現在では滞納者個別の状況をよく聞き取り、生活困窮者や福祉支援が必要な方を早期に発見し、生活再建や自立を支援するとともに、適切な未収債権の回収を実現しています。



2 飢餓をゼロに



飢餓をゼロに

ゴール2は栄養と食料生産に関するデータです。愛知県内では、こどもの栄養状態は全国平均よりも良好ですが、食料生産については更なる努力が必要です。

栄養状態が不良なこどもの割合(%)

【関連するターゲット】 2.2

「栄養状態が不良」とは、特定の栄養が不足している場合や栄養過多の状態も含まれています。

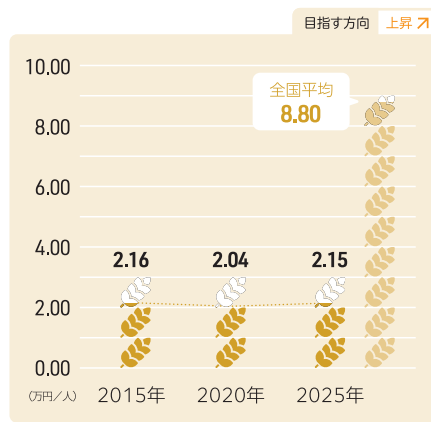


※数値は愛知県平均値です

人口1人当たり農業・漁業産出額(万円/人)

【関連するターゲット】 2.3 2.4 2.5 2.a 2.b 2.c

その地域の農業・漁業産出額を人口で割った指標です。1人当たりの食料生産額を示しています。

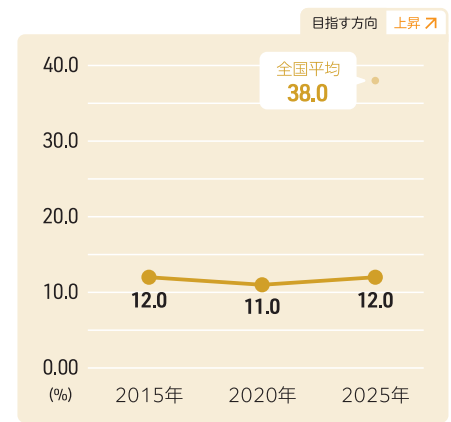


※数値は愛知県平均値です

食料自給率(カロリーベース)(%)

【関連するターゲット】 2.4

1人1日当たりに消費している熱量(カロリー)を、その地域で1日当たりに生産(供給)されている品目ごとの熱量(カロリー)で割った値を示しています。



※数値は愛知県平均値です

関連した取組

菜の花栽培を通じた農地の保全

実施主体

特定非営利活動法人 豊田・加茂菜の花プロジェクト
<https://www.hanaoka.biz/nanohana-project/>



豊田市は工業に加え、梨や桃、米などの農業も盛んである一方、担い手の高齢化や後継者不足により農地の荒廃が課題となっています。

とよたSDGsパートナーであるNPO法人豊田・加茂菜の花プロジェクトは、遊休農地を活用した菜の花栽培に取り組んでいます。栽培では食品副産物由来のたい肥を利用し、資源循環にも配慮しています。収穫した菜の花は菜種油などに加工され、店頭販売やふるさと納税の返礼品として活用されています。

この取組は農地保全や資源循環、特産品づくりによる地域活性化など複数の課題解決に貢献しています。また、学校での講演や農業体験などを通じて、SDGsの取組を次世代に伝える活動も行っています。



3 すべての人に健康と福祉を



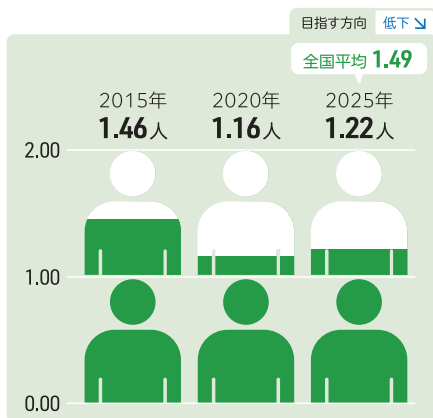
すべての人に健康と福祉を

ゴール3は健康と福祉に関するデータです。豊田市では、全国と同様に若年死亡者数や自殺者数が減少傾向にあり、愛知県平均でみると健康寿命は増加傾向にあります。

人口千人当たり 若年死亡者数(人)

【関連するターゲット】 3.1 3.3 3.4 3.5 3.6 3.8 3.9 3.a 3.b 3.c 3.d

30～69歳の人を「若年」と定義し、全人口に対する、高齢になる前に何らかの理由で死亡した方の割合を示しています。(若年の定義はSDSN※による)



※SDSN:持続可能な開発ソリューション・ネットワーク

人口10万人当たり 自殺者数(人)

【関連するターゲット】 3.4

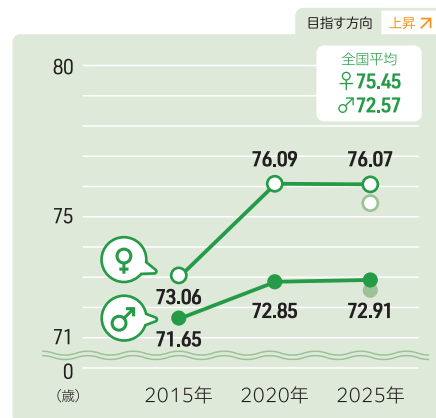
人口10万人当たりの自殺者数の割合を示しています。



健康寿命(歳)

【関連するターゲット】 3.1 3.2 3.3 3.4 3.6 3.8 3.9 3.a 3.b 3.c 3.d

健康寿命とは、日常生活に制限のない程度状態で生活することが可能な生存期間を示す指標です。



※数値は愛知県平均値です

関連した取組

成果連動型の手法を用いた 介護予防事業

実施主体 豊田市

<https://www.city.toyota.aichi.jp/kurashi/fukushi/koureisha/1044582.html>



「ずっと元気！プロジェクト」は、成果に応じて報酬を支払うソーシャルインパクトボンド（SIB）という手法を活用して介護予防に取り組む事業です。

豊田市では高度経済成長期に人口が急増した経緯から今後高齢者の割合が急速に高まり、さらにコロナ禍によって外出機会が減少したことで、介護費用の増大が懸念されていました。

そこで本プロジェクトでは、社会参加の多い高齢者ほど介護リスクが低いという研究結果に基づき、趣味、運動、就労

など社会参加につながる多様なプログラムを展開します。こうした事業に対して成果に連動した報酬が支払われることで、民間事業者の工夫を引きだしながら、高齢者の生きがいや幸福感の向上を図っています。



4 質の高い教育を
みんなに



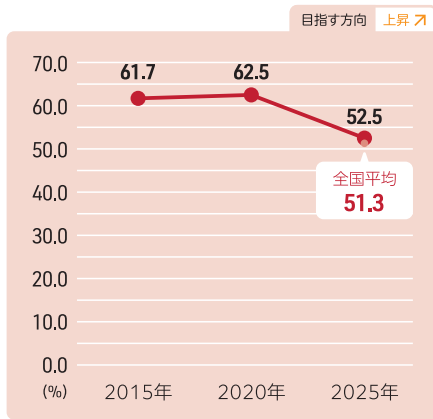
質の高い教育をみんなに

ゴール4は教育に関するデータです。豊田市は、全国同様に高い水準にあり、ジェンダーの視点も改善傾向にあります。引き続き改善に努めます。

学力調査の平均正答率(%)

〔関連する
ターゲット〕 4.6 4.7

中学生の学力調査における全教科平均の正答率を示しています。毎年の試験難易度も変動するため、参考データであることに留意してください。

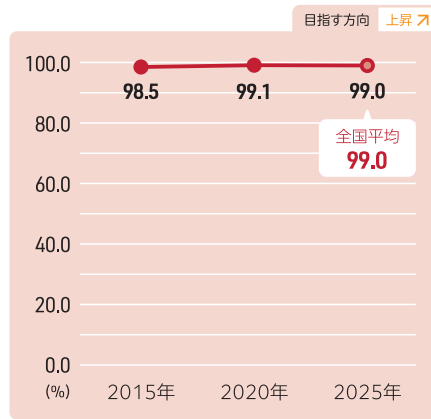


※数値は愛知県平均値です

中学校卒業者の進学率(%)

〔関連する
ターゲット〕 4.3 4.4 4.6 4.7 4.b

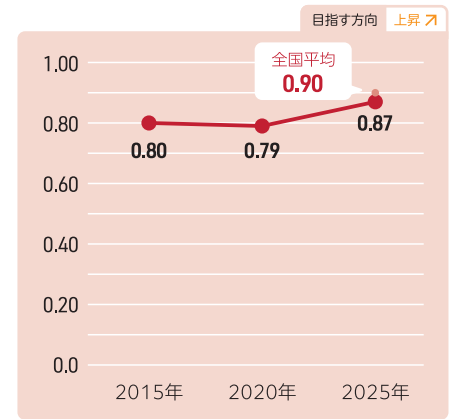
中学校卒業後に高等学校や高等専門学校等に進学した生徒の割合を示しています。



大学等進学における ジェンダーパリティ指数(-)

〔関連する
ターゲット〕 4.5

この指数は、大学進学者が少ないほう(豊田市では男性)を多いほう(女性)で割った値であり、1に近いほど平等、0に近いほど不平等を示しています。



関連した取組

学校部活動の地域展開(とよクラ)

実施主体 豊田市

<https://www.city.toyota.aichi.jp/kurashi/shogaigakushu/sports/1052986/index.html>



部活動の地域展開は、こどもたちの将来にわたるスポーツ・文化芸術活動に親しむ機会の確保を目的に、全国で進められています。

豊田市は「こどもファースト」を基本方針とし、全国に先駆け、令和8年9月に全中学校部活動を地域の大人が携わる「とよた地域クラブ活動(とよクラ)」に移行します。

とよクラは、家庭環境に関わらず、こどもたちが部活動と同様に活動できるよう、参加費を無料とし、基本的な活動場

所を学校としています。

また、地域ぐるみのスポーツ・文化芸術活動の環境づくりを通じて、こどもたちの貴重な学びや体験機会を確保するだけでなく、地域での大人とこどものつながりを生み出し、地域の持続的な発展を実現することを目指しています。



5 ジェンダー平等を実現しよう



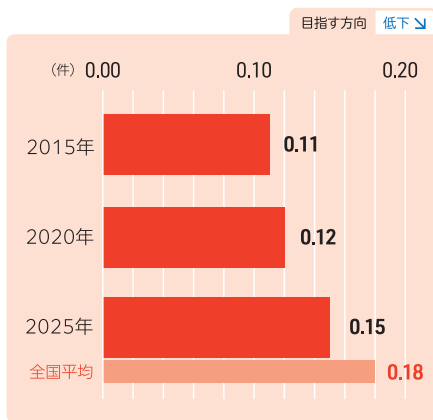
ジェンダー平等を実現しよう

ゴール5はジェンダーに関するデータです。男女の格差を示すジェンダーパリティ指数は改善傾向にありますが、達成度向上には更なる努力が必要です。性犯罪の認知件数も全国平均より少ないものの微増しています。

女性千人当たり性犯罪の認知件数(件)

【関連するターゲット】 5.2 5.3 5.6 5.c

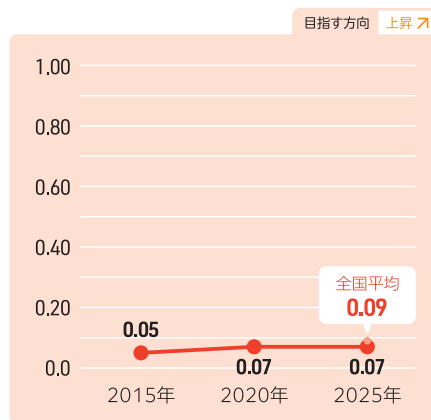
女性人口千人当たりの警察等捜査機関によって性犯罪の発生が認知された件数で、犯罪への遭いやすさを示しています。



家事従事者に関するジェンダーパリティ指数(-)

【関連するターゲット】 5.1 5.4 5.a 5.c

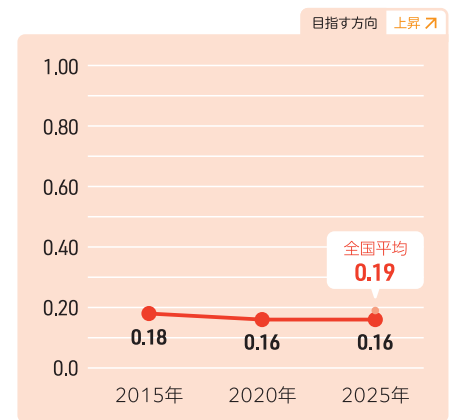
この指数は、家事従事者が少ないほう(男性)を多いほう(女性)で割った値であり、1に近いほど平等、0に近いほど不平等を示しています。



管理的職業のジェンダーパリティ指数(-)

【関連するターゲット】 5.1 5.5 5.a 5.c

この指数は、管理的職業が少ないほう(女性)を多いほう(男性)で割った値であり、1に近いほど平等、0に近いほど不平等を示しています。



2020~2025データ更新なし

2020~2025データ更新なし

関連した取組

豊田市ジェンダー平等推進センター

実施主体 豊田市

<https://clover-toyota.jp/>



豊田市では、令和7年3月に「クローバープランV(第5次とよた男女共同参画プラン)」を策定し、性別にかかわらず誰もが自分らしくいきいきと暮らせるまちの実現を目指しています。

「豊田市ジェンダー平等推進センター」は、ジェンダー平等の推進を担う拠点施設として講座・セミナー・イベント等を開催し、ジェンダー平等に関する学びの機会を提供するとともに、登録団体の活動支援、専用の電話相談も実施しています。

さらに、多様な性のあり方を尊重する

取組として、一方又は双方が性的少数者(LGBTQ+)である二人が婚姻関係と同様に家族として暮らしていくことを宣言し、市が証明書を発行する「豊田市ファミリーシップ宣言制度」を実施しています。



6 安全な水とトイレ
を世界中に



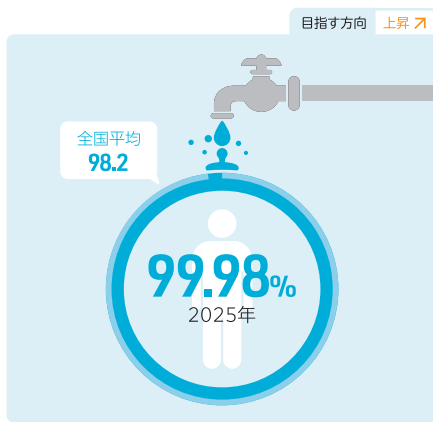
安全な水とトイレを世界中に

ゴール6は水と衛生に関するデータです。日本における上下水道の普及は世界的に見て極めて高い水準にあります。水利用による環境負荷については、引き続き抑制していくことが求められます。

水道普及率(%)

〔関連するターゲット〕 6.1 1.4

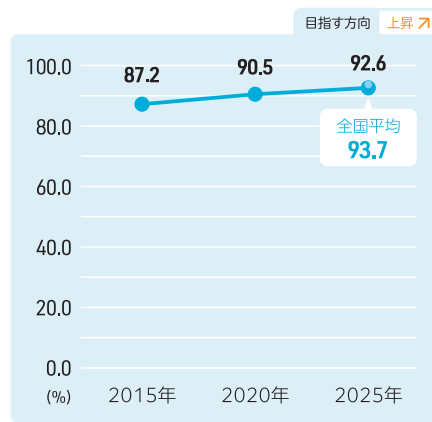
水道普及率は水道を使用できる人口の割合を示しています。日本ではほぼ全世界で水道利用が可能です。



汚水処理人口普及率(%)

〔関連するターゲット〕 6.2 6.a 1.4

下水道、農業集落排水施設等、浄化槽等のいずれかの施設と接続している人口の割合を示します。



人口1人当たり生活用水使用量(m³/人)

〔関連するターゲット〕 6.4 6.5 6.6 6.a

1人当たりの生活用水使用量であり、その地域で生活している人が1年間で使用している水の量を示しています。



※数値は愛知県平均値です

関連した取組

先端技術を生かした 水道インフラの維持管理

実施主体 豊田市

<https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/digitaldenen/koshien/honsen/2023/0021.html>



豊田市では現在ほとんどの市民が安全で清潔な水を利用できる一方で、市域全体に広がる水道インフラの老朽化が進み、効率的な維持管理が大きな課題となっています。

そこで、上下水道局では宇宙技術やAIを活用した取組を進めています。具体的には、人工衛星データを用いて水の成分を分析し、優先的に漏水調査を行う地域を特定する「漏水エリア特定診断」や、AIで水道管の破損確率を予測して更新の優先順位を可視化する「劣化予測診断」を導入しました。

さらに、地表面温度データを活用した

「漏水リスク評価」や「水道管凍結注意マップ」の作成などの実証実験も行っています。

今後も、維持管理の更なる効率化に取り組み、24時間365日安全安心な水を供給していきます。



7 エネルギーをみんなに
そしてクリーンに



エネルギーをみんなに そしてクリーンに

ゴール7はエネルギーに関するデータです。この10年間で再生可能エネルギーの普及が急速に進んでいます。一方、エネルギー消費量については変動が見られ、減少に向けた努力が必要です。

電気を受電可能な人口比率(%)

【関連するターゲット】 **7.1** **7.b** **1.4**

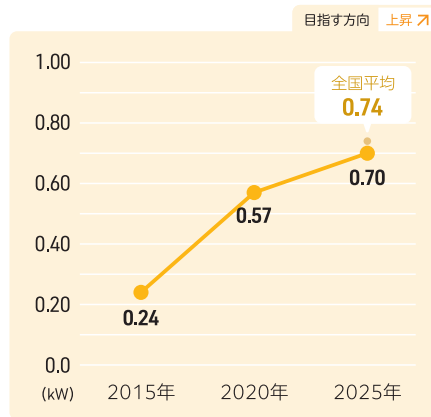
電気を受電可能な人口の割合を示しています。日本全体で100%であると仮定※しており、年次による変動はありません。※Global Tracking Framework(世界銀行)



人口1人当たり再生可能エネルギー導入容量(kW)

【関連するターゲット】 **7.2** **7.a**

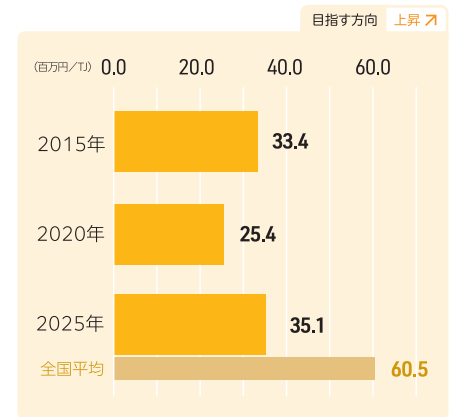
その地域に設置されている太陽光発電や風力発電をはじめとした再生可能エネルギーの発電容量を示しています。



最終エネルギー消費量当たり 域内総生産(百万円/TJ)

【関連するターゲット】 **7.2** **7.3** **7.a**

エネルギー 1単位(TJ:テラジュール)当たりで生み出せるその地域の総生産を示しています。経済活動のエネルギー生産効率を表しています。



関連した取組

地域企業が取り組む 世界水準の脱炭素経営

実施主体 株式会社原田工務店

<https://platform-clover.net/project/detail/1124>



豊田市では、脱炭素社会の実現に向けた動きが地域産業を支える大小の企業にも広がっています。

市内で建設・土木事業を展開する(株)原田工務店は、豊田市SDGs認証制度のブロンズ認証を取得するなどSDGsへの取組を進めており、その一環として豊田市の「豊田市脱炭素スクール」にも参加し、2025年10月にはSBT(Science Based Targets)認定を取得しました。SBTは、温室効果ガス削減の取組に対する国際的な認定制度です。

同社では2023年度を基準年として、

CO₂排出量を2030年度までに42%削減する目標を設定し、再生可能エネルギーの導入や、環境性能の高い建設機械の導入などの取組を進めています。



8 働きがいも 経済成長も



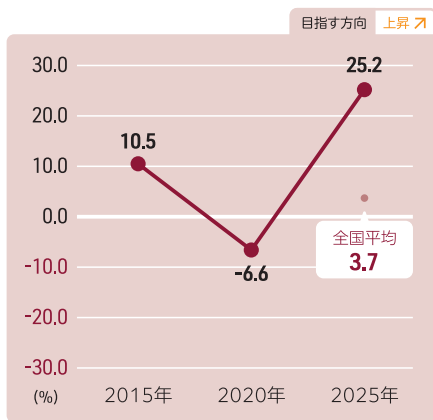
働きがいも 経済成長も

ゴール8は経済と労働に関するデータです。豊田市は全国と比べて高い水準にあり、とりわけ域内総生産の伸び率はコロナ禍の2020年から2025年に急激に改善しています。

人口1人当たり 域内総生産の伸び率(%)

〔関連するターゲット〕 8.1 8.2 8.3 8.9 8.10

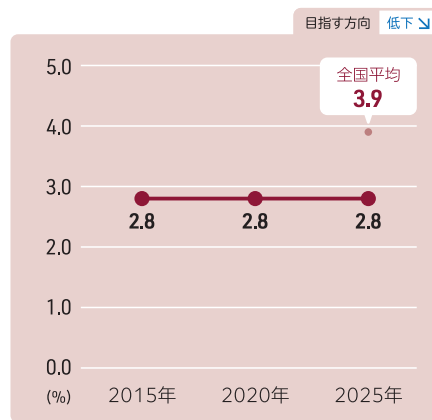
人口当たりの地域内の総生産(農業生産額や製造品出荷額、商品販売額などの合計)の毎年の伸び率を示した指標です。



失業率(%)

〔関連するターゲット〕 8.3 8.5 8.9

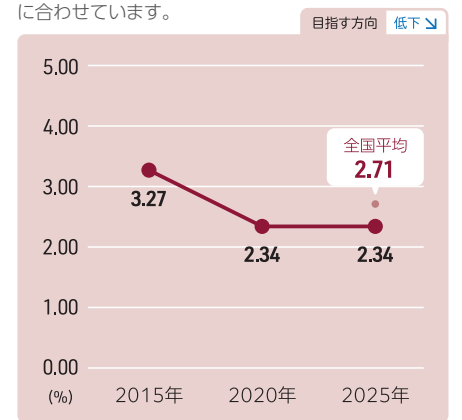
15歳以上で働く意思のある労働力人口に対する失業者数の割合です。地域の雇用や景気状況を示しています。



就労、就学及び職業訓練のいずれも行っていない15~24歳人口の割合(%)

〔関連するターゲット〕 8.6 8.7 8.9

いわゆるニートの割合を示しており若年層の雇用機会や教育機会の不足を表しています。日本ではニートの定義は34歳以下ですが、本指標ではSDGsの基準に合わせています。



2020~2025データ更新なし

2020~2025データ更新なし

関連した取組

ディーセントワークの実現に向けて進む市内企業の取組

実施主体 豊田水建株式会社

<https://www.toyotasuiken.com/ikiiki/>



豊田水建(株)は、豊田市で水道インフラ整備や土木工事などを手がける企業です。働きやすい職場づくりに力を入れており、2024年には「豊田市はたらく人がイキイキ輝く事業所表彰」で大賞を受賞しました。受賞では、業務の見直しや、休日の増加、休暇取得の促進、働き方ニーズの把握、若手人材の育成など様々な取組が評価されました。

また、女性が活躍しやすい環境整備や給与水準の向上などの取組を進めた結果、従業員の働きがいの向上や職場のチーム

力強化、採用希望者の増加にもつながっています。

さらに、太陽光発電設備の導入や社屋を地域の防災拠点として活用するなどの取組も評価され、豊田市SDGs認証制度ではシルバー認証を取得しています。



9 産業と技術革新の基盤をつくろう



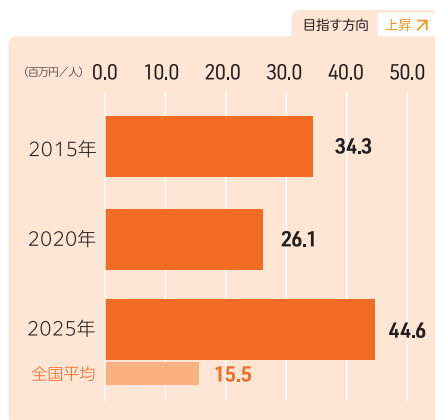
産業と技術革新の基盤をつくろう

ゴール9は産業と技術革新に関するデータです。豊田市は、製造品付加価値や特許出願は全国と比べ非常に高い水準です。一方、CO2排出量については更なる努力が必要です。

従業者1人当たり 製造品付加価値額(百万円/人)

【関連するターゲット】 9.2 9.3 9.5 9.b 9.c

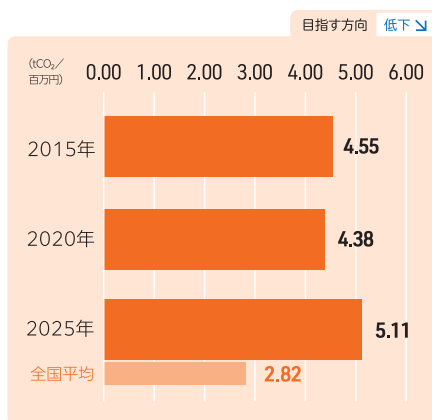
付加価値額とは、収入から費用総額を除いたもので、製造業において従業者1人当たりが生み出す価値を示します。



付加価値額百万円当たり CO2排出量(tCO2/百万円)

【関連するターゲット】 9.1 9.4 9.5 9.a 9.b 9.c 8.4

付加価値額百万円を生み出す過程におけるCO2排出量であり、経済活動の環境効率を示しています。



人口10万人当たり 特許出願数(件)

【関連するターゲット】 9.5 9.b 9.c

人口10万人当たりの特許出願数を示しており、その地域でのイノベーションの起きやすさを示した指標です。



関連した取組

新産業の育成に向けた ネットワーク形成

実施主体 豊田市

<https://toyota-sentan.jp/mobility/>



豊田市は、次世代航空モビリティを地域産業の新たな柱に育てるため、2021年8月に「豊田市次世代航空モビリティ協業ネットワーク」を設立しました。

活動の中心となるのは、「サプライ」「ユースケース&サービス」「ヒューマン」の3つの視点です。「サプライ」は、市内企業による開発・製造基盤の構築に向けマッチングなどに取り組んでいます。「ユースケース&サービス」は、活用事例の創出と市内でのサービス提供事業者の育成を目指し、実証実験などを行って

ます。「ヒューマン」は、開発人材の育成・確保と、空飛ぶクルマやドローンの社会的イメージの向上を目的として、空飛ぶクルマから見た豊田市を体感できるVRイベントなどを開催しています。



10 人や国の不平等をなくそう



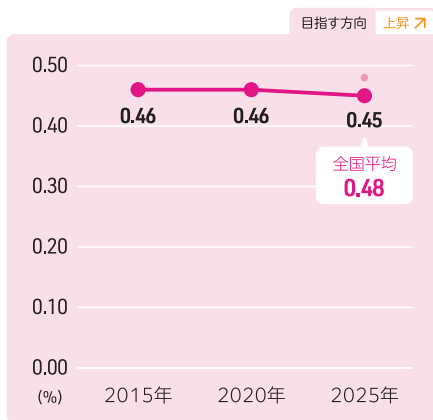
人や国の不平等をなくそう

ゴール10は不平等に関するデータです。豊田市はいずれの指標も全国平均を少し下回る水準です。特に外国人労働者の失業率は2020年以降、愛知県全体で低下しておらず、注意が必要です。

世帯所得300万円未満の世帯の割合の減少率(%)

【関連するターゲット】 10.1

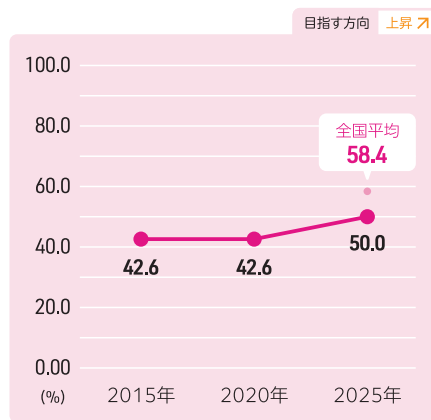
所得階層の低い世帯の割合の減少率です。所得格差の改善の程度を示しています。



労働分配率(%)

【関連するターゲット】 10.3 10.4

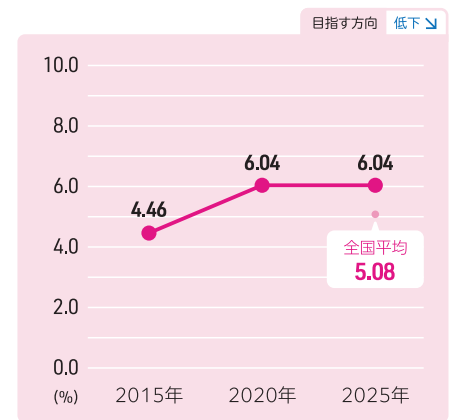
企業が生み出した付加価値額のうち、どれだけが労働者に分配されているかを表しています。



外国人労働者の失業率(%)

【関連するターゲット】 10.7

失業率のうち、外国人労働者に焦点を当てた指標です。ゴール8の労働力人口全体での失業率との比較も重要です。



2020~2025データ更新なし ※数値は愛知県平均値です

関連した取組

「働きたいのに働けない」をなくす 新たな就労支援モデル

実施主体

一般社団法人ダイバーシティ・スタイル
<https://work-diversity-style.toyota-mps.com/>



豊田市では、既存の制度やサービスでは対応しきれない生活上の「小さな困りごと」を解決できる社会の実現を目指し、市内の福祉事業所や企業と連携して「とよた多世代参加支援プロジェクト」を進めています。

このプロジェクトを推進する(一社)ダイバーシティ・スタイルは、人間関係への不安など、様々な理由から「働きたいのに働けない」状況に置かれてしまっている市民を対象とした、新しい就労支援モデルを試行しています。既存の障がい者

向け制度の対象とならない人からも相談を受け付け、就労支援事業所と連携して職業訓練やカウンセリング、就職活動支援など、一人ひとりに寄り添った支援を行っています。



11 住み続けられるまちづくりを



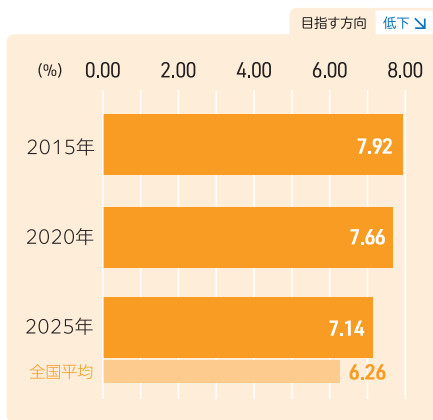
住み続けられるまちづくりを

ゴール11は都市環境に関するデータです。豊田市は居住水準や大気環境は全国よりも改善傾向にありますが、広い中山間部を有するため、公共交通カバー率はやや低い傾向にあります。

最低居住面積水準未達の住宅に住む人口の割合(%)

【関連するターゲット】 11.1 11.3 11.c

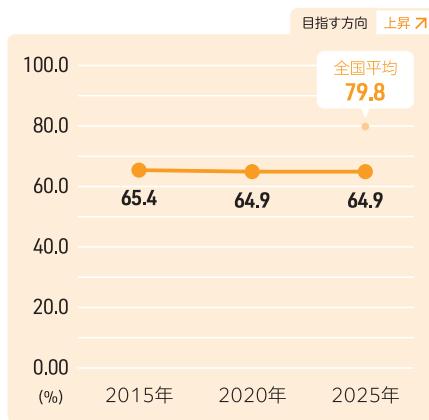
最低居住面積水準とは、国が示す、世帯人数に応じた、健康で文化的な住生活を送るための最低面積です。



公共交通カバー率(%)

【関連するターゲット】 11.2 11.a

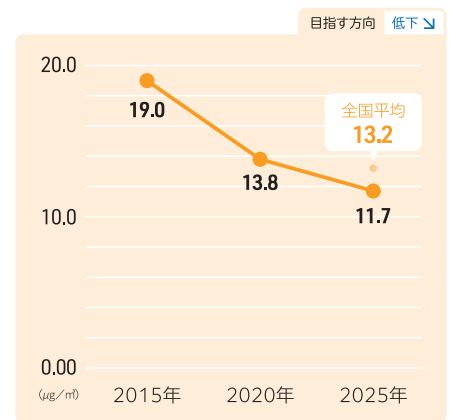
鉄道駅から800m以内、またはバス停から300m以内に住んでいる人口の割合を示しています。



SPM濃度(μg/m³)

【関連するターゲット】 11.6

大気中に含んでいる浮遊粒子状物質(SPM)の濃度であり、大気汚染の評価基準の1つです。



2020~2025データ更新なし

関連した取組

レベル4自動運転の実現を目指した様々な実証事業

実施主体 豊田市

<https://www.city.toyota.aichi.jp/shisei/machizukuri/1072722/>



広大な市域を持つ豊田市では、今後公共交通を維持することが難しくなることが懸念されています。そこで市は「クルマのまち」として、公共交通の維持や利便性向上、高齢者などの移動支援などを目的に、自動運転の実現を目指しています。

都市部と山村部の双方で、2016年頃から超小型EVやトラック、バスなど多様な車両を用いた実証を重ねてきました。名鉄三河線土橋駅から愛知環状鉄道三河豊田駅までの公道で行われた2026年2月の実験では、事故なく運行を終えました。

これらの成果を踏まえ、2027年度末までに特定のエリア・道路・天候条件下で人の介入を必要としない「レベル4自動運転」を実現することを目指しています。



12 つくる責任
つかう責任



つくる責任 つかう責任

ゴール12は持続可能な消費と生産に関するデータです。ごみ排出量や有害廃棄物の処理については全国平均よりも高い水準にありますが、リサイクル率については改善が必要です。

域内総生産当たり 事業系ごみの排出量(t/万円)

【関連するターゲット】 12.2 12.3 12.6 12.a

総生産当りに生じる事業系ごみの排出量であり、経済活動の環境効率を表す指標の1つです。



有害廃棄物の処理率(%)

【関連するターゲット】 12.3 12.4 12.5 12.6

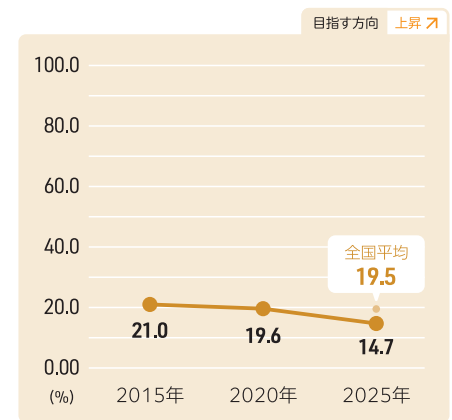
有害ごみや危険ごみ等で収集されるもの(その他のごみ)のうち、直接埋め立て以外の方法で処理されたごみの割合を示しています。



リサイクル率(%)

【関連するターゲット】 12.6 12.7 12.8

ごみの搬入量のうち、資源化し原料や燃料などで再利用されたごみの割合を示しています。



関連した取組

循環型社会の形成に向けた リユースの推進

実施主体 豊田市

<https://www.city.toyota.aichi.jp/kurashi/gomi/recycle/1009559/1003821.html>



豊田市では、ごみの減量と資源循環の推進に向けて様々な取組が行われています。

粗大ごみ再生施設「リユース工房」は、粗大ごみの中から、まだ使用できる家具などを清掃・補修し、リユース家具として展示・入札販売する施設です。物を大切に長く使う意識の啓発やごみ減量への理解促進を目的としています。毎月約50点、年間約600点の家具が出品され、年間約9トンのごみ削減につながっています。

さらに2023年11月には、家具や生活用品などを清掃して展示・譲渡する「リユース

スポット」も開始され、年間約2,000点、約14トンのごみ削減効果があります。

このほか、地域情報サイト「ジモティー」と連携した譲り合いの促進にも取り組んでいます。



13 気候変動に
具体的な対策を



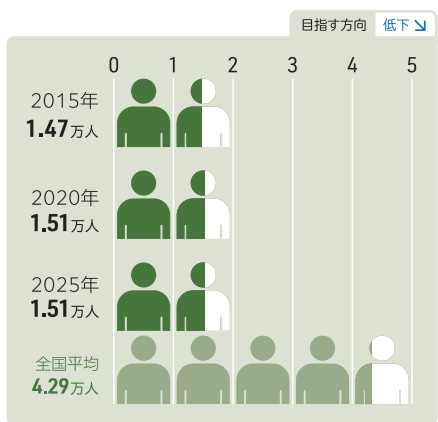
気候変動に具体的な対策を

ゴール13は気候変動に関するデータです。水災害の危険性は全国平均と比べて比較的小さいものの、熱中症搬送者数は全国と同様に増加傾向にあり、対策強化が求められます。

人口10万人当たり水災害危険地域の居住者数(万人)

【関連するターゲット】 13.1 13.3 1.5 11.5 11.b 11.c

国や地方自治体が発表している洪水浸水想定区域内に住む人口を示しています。

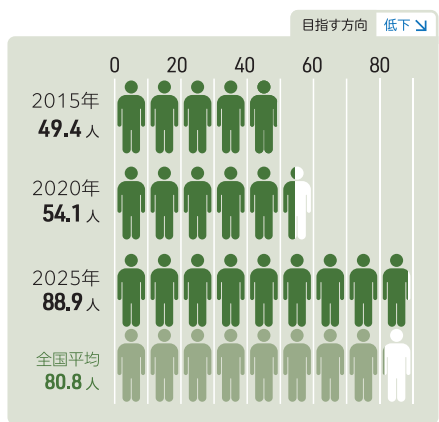


2020~2025データ更新なし

人口10万人当たり熱中症搬送者数(人)

【関連するターゲット】 13.1 13.3

毎年概ね5月から9月の間に、熱中症により救急搬送された患者数を示しています。



*数値は愛知県平均値です

人口1人当たりCO₂排出量(tCO₂/人)

【関連するターゲット】 13.2 13.3

その地域の産業や家庭、交通などすべての分野で排出されるCO₂排出量を総人口で割った値です。



関連した取組

2050年のカーボンニュートラルを目指す市民運動

実施主体 豊田市

<https://www.city.toyota.aichi.jp/kurashi/kankyou/ondankaboushi/1052555.html>

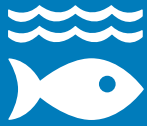


豊田市は、2050年までにCO₂排出量を実質ゼロにする、ゼロカーボンシティを目指し、市民運動「とよた・ゼロカーボンアクション」に取り組んでいます。「省エネでCO₂を減らそう!」「エコな移動でCO₂を減らそう!」「ごみ減量でCO₂を減らそう!」の3つの「脱炭素」に取り組むスローガンを掲げ、これまでにCO₂削減効果を競い合う「脱-1グランプリ」やマイボトル持参の推進など、参加型イベントを通じて環境意識向上と行動変容を促してきました。

また、豊田市・豊田市区長会・豊田商工会議所・JAあいち豊田・連合愛知豊田地域協議会による協議会「とよた・ゼロカーボンネットワーク」を設立し、市内全域への運動の波及と継続を図っています。



14 海の豊かさを
守ろう



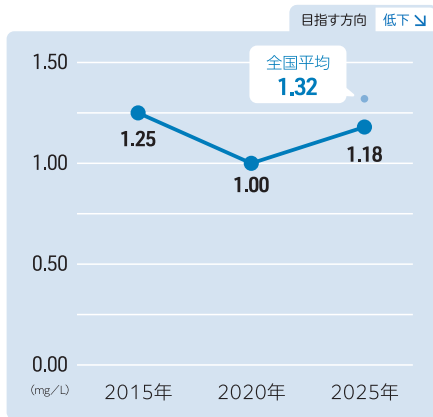
海の豊かさを守ろう

ゴール14は海の生物多様性に関するデータです。豊田市には海はありませんが、河川に注目するといずれの指標も全国平均よりも高い水準にあります。引き続き達成度の向上が期待されます。

河川BOD(mg/L)

【関連するターゲット】 14.1 14.3 6.3 6.6 6.b

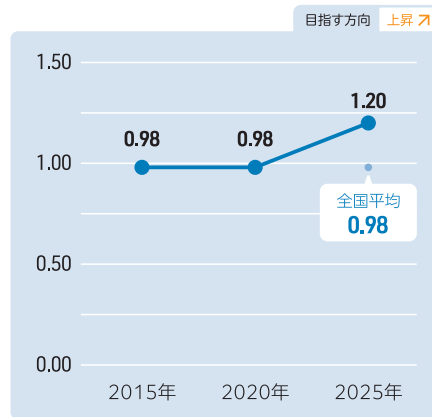
BODとは、生物化学的酸素要求量のことで水質の環境基準の1つです。値が大きいほど、河川の自浄作用や魚類をはじめとする水生生物の環境が悪化します。



漁獲物・収穫物の 販売金額変化率(-)

【関連するターゲット】 14.2 14.4 14.5 14.7 14.b 14.c

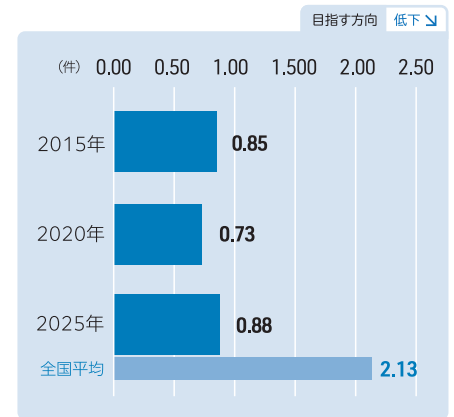
漁獲物や収穫物の毎年の変化を示すものであり、1を下回ると、漁獲量や産業基盤、資源量が低下していることを示しています。



人口10万人当たり漁業関連 法令違反の検挙件数(件)

【関連するターゲット】 14.4 14.6 14.c

本指標は人口10万人当たりの漁業関連法令違反(密漁)の件数を表しており、資源管理の適切性を測る指標です。



関連した取組

矢作川の魅力を発信する 草の根の活動

実施主体 矢作川水族館

<https://yahagigawa-suizokukan.jimdofree.com/>



豊田市を流れる矢作川は、かつて深刻な水質汚濁が発生し、環境悪化が大きな問題となりました。しかし、市民運動をきっかけに上流と下流の市民・行政・企業が連携して環境改善に取り組み、水質や水辺環境は大きく回復しています。

とよたSDGsパートナーの「矢作川水族館」は、矢作川の魅力を多くの人に伝えようと活動する市民グループです。様々なイベントに移動水族館を出展し、川と海を往来するアユやウナギなどの回遊魚の紹介を通じて山～川～里～海の流

域意識を広めています。

また、さかな捕りやカヤック下りなどの川遊び体験、時には川の生き物の料理体験などを通して矢作川の生物多様性と河川環境の大切さ、遊ぶ楽しさを発信しています。



15 陸の豊かさも守ろう



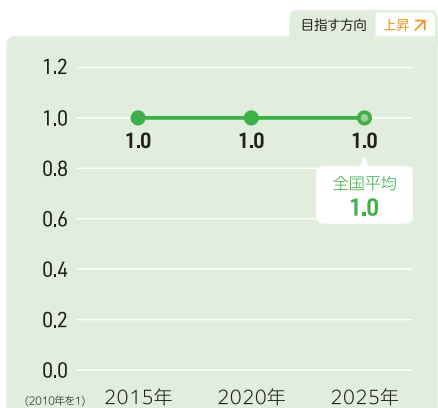
陸の豊かさも守ろう

ゴール15は陸の生物多様性に関するデータです。豊田市では、特に外来生物種数が全国平均よりも多く、引き続きこれらの適正な管理と対応が求められます。

森林面積の変化率(2010年を1)

【関連するターゲット】 15.1 15.2 15.3 15.4 15.a 15.b
11.3 11.4 11.7

2010年からの森林面積の変化を示したものです。もともと森林面積の小さい地域では減少しにくい点に留意が必要です。



2020~2025データ更新なし

人口10万人あたり動植物の密猟及び違法取引件数(件)

【関連するターゲット】 15.6 15.7 15.9 15.c

動植物の密漁や違法取引の件数であり、生物の適正な管理と保護の程度を示しています。



※数値は愛知県平均値です

定着が確認された特定外来生物種数(種)

【関連するターゲット】 15.4 15.5 15.8 15.9 15.a 15.c

その地域で定着が確認された外来生物種数を示しています。外来種による地域の生態系への影響リスクを示しています。



関連した取組

企業が率先して取り組む 生物多様性の回復

実施主体 豊田鉄工株式会社

https://www.tiw.co.jp/sustainability/environment/activity/toyotetsu_forest



近年、企業においても生態系への取組が注目されています。豊田市SDGs認証制度で最高位のゴールド認証を取得している豊田鉄工(株)は、2013年に本社敷地内の旧本社社屋跡地で「トヨタの森」を整備しました。既存の黒松や桜を残しながら、四季を通じて自然を楽しむ緑地が形成され、自然体験や環境学習が行われているほか、約2,550㎡の芝生エリアは緊急時の避難場所としても活用されます。

この森は矢作川周辺と西側の丘陵・田園地帯をつなぎ、“まちなかに生き物を呼

びこむくみどりの回廊>”として地域の生物多様性保全に貢献しており、2017年に累計80種だった昆虫が、2025年には243種確認されるなどの効果が生まれています。



16 平和と公正をすべての人に



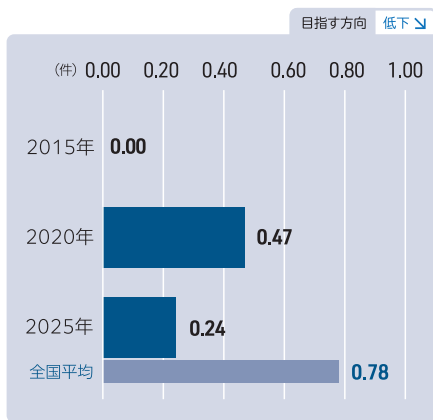
平和と公正をすべての人に

ゴール16は平和と公正に関するデータです。いずれの指標も全国平均よりも高い水準にありますが、全国同様に虐待の相談件数は増加傾向にあります。

人口10万人当たり殺人事件の認知件数(件)

【関連するターゲット】 16.1 16.3 16.4 16.5

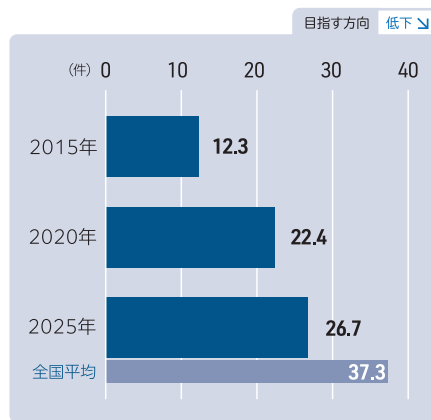
警察等捜査機関によって発生が認知された殺人事件の件数であり、地域の安全性を示す指標の1つです。



小学生千人当たり児童虐待相談件数(件)

【関連するターゲット】 16.2 16.3

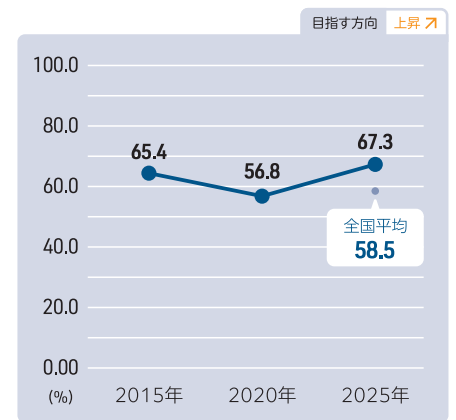
児童相談所への相談件数です。全国的に増加傾向にあります。通報しやすさの向上など、社会環境の正の変化もあることに留意が必要です。



選挙投票率(%)

【関連するターゲット】 16.5 16.6 16.7 16.8 16.9 16.10 16.a 16.b

各年の直近の衆議院議員及び参議院議員選挙の投票率を示しています。投票率が高いほど、市民や地域の政治参加の意欲が高いことを表しています。



関連した取組

投票率を向上させるための教育と環境整備

実施主体 豊田市

<https://www.city.toyota.aichi.jp/shisei/soshiki/senkyokanri/1004578.html>



豊田市選挙管理委員会事務局では、近年の投票率低下や若年層の政治参加の少なさを背景に、投票率向上に向けた様々な取組を行っています。早期から意義を理解してもらうため、豊田市ではこども向けに「明るい選挙啓発ポスター」コンクールや出前トークを実施するほか、小・中学校の生徒会役員選挙に投票箱や記載台を貸し出し、選挙の雰囲気を経験できる機会を提供しています。

また、若者が投票しやすい環境づくりとして、市役所や支所だけでなく商業施

設にも投票所を設置したり、路線バスを利用した移動期日前投票所を自動車教習所に開設するなど、生活圏内で投票できるように取り組んでいます。



17 パートナーシップで
目標を達成しよう



パートナーシップで目標を達成しよう

ゴール17はパートナーシップに関するデータです。財政状況やSDGsに関する取組は非常に高い水準にあります。引き続き、国内の様々な主体や国際的なパートナーシップと能力向上が重要です。

財政力指数(-)

【関連する
ターゲット】 **17A** **10.5**

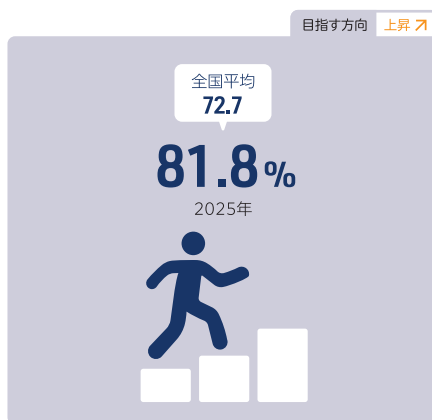
財政力指数は、基準財政収入額を基準財政需要額で割った値で、地方自治体の財政力を表しています。



SDGs推進率(%)

【関連する
ターゲット】 **17A** **17A6** **17A7**

内閣府による全国自治体アンケートの結果をもとにしており、取組項目の多さを示しています。



人口10万人当たり 姉妹都市数(都市)

【関連する
ターゲット】 **17A6** **17A7**

国内外の自治体間におけるパートナーシップを可視化する指標として、姉妹都市の数を指標としています。



関連した取組

産学官民で取り組む 魅力的な地域づくり

実施主体 丸普窯業原料有限会社

<https://www.marufu-kouzan.jp/news/>

【プロジェクト】大平-憩いの杜、お披露目式を開/



豊田市は、地域の課題解決や魅力向上を支援する「わくわく事業補助金」などの施策を通じ、住民主体のまちづくりを推進してきました。近年は、こうした活動に民間企業も参画し始めています。

とよたSDGsパートナーの丸普窯業原料(有)は、小原地区を拠点に陶磁器や建設資材の原料となる岩石を採掘・加工する企業で、有志で「小原観光景観発展会」を発足し、「わくわく事業補助金」を活用して地域の憩いの場となる庭園づくりに取り組んでいます。

2025年2月完成の「大平 憩いの杜」は、丸普窯業原料が石材や表土を提供し、愛知県立猿投農林高校の生徒による設計や市民団体「チャレンジ大平」による用地・機材協力など、各団体の資源を活かして作られました。

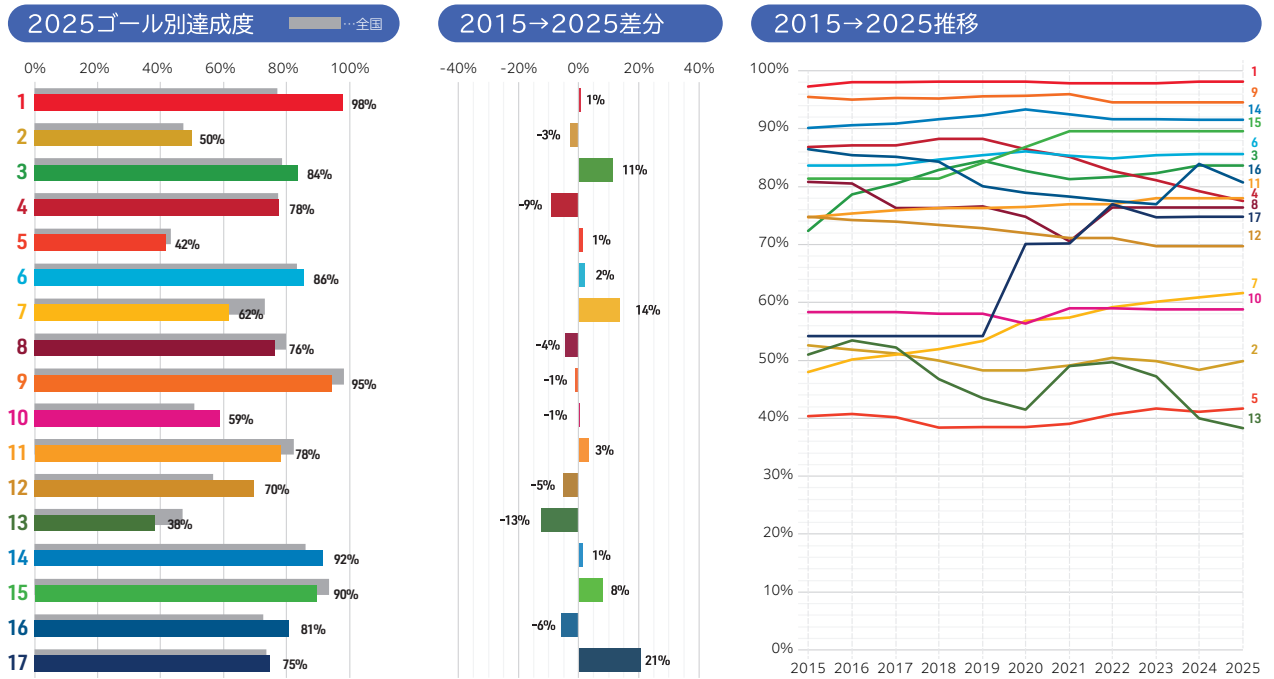


5

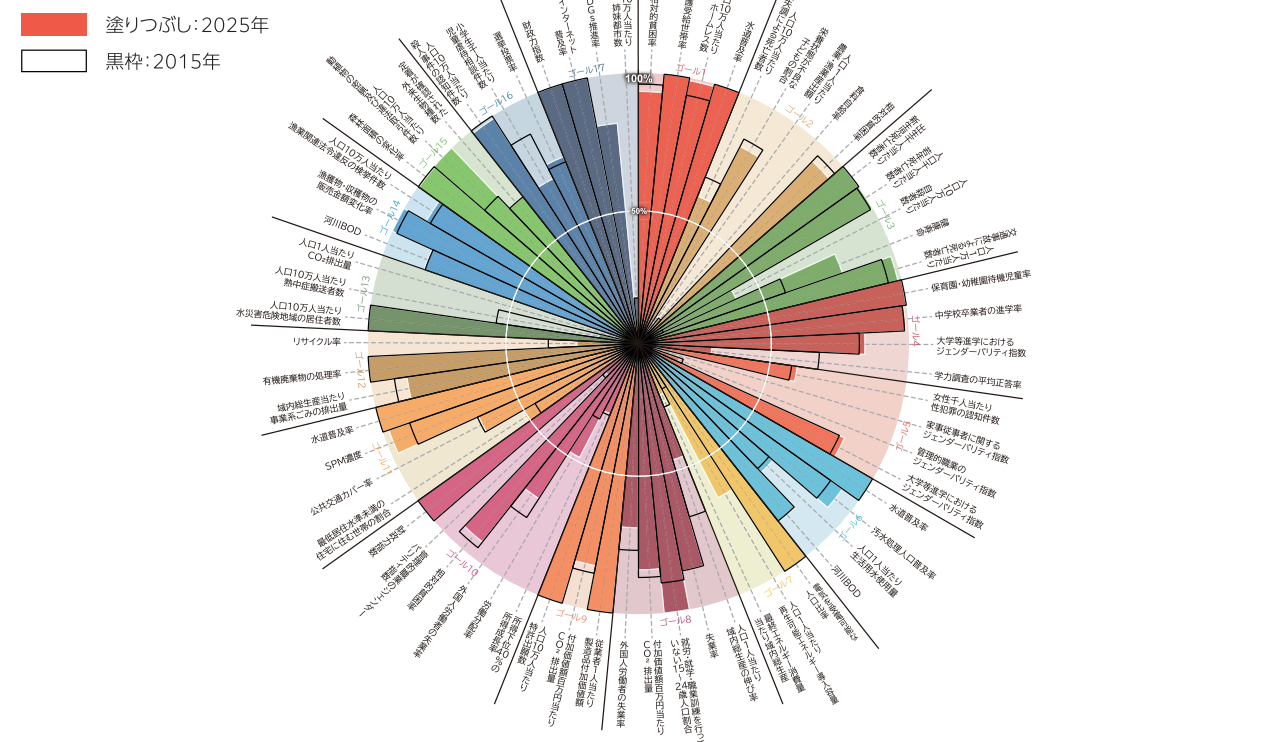
豊田市のSDGs達成度の推移

地方自治体 SDGs 達成度評価指標による豊田市の SDGs の変化

豊田市のSDGs全体をみると、ゴール1(貧困)やゴール9(経済)、ゴール14とゴール15(海と陸の生物多様性)が非常に高い地域といえます。この10年間で特にゴール3の健康やゴール7のエネルギー、ゴール17のパートナーシップが大きく改善しています。一方、気候変動を中心としたゴール13の達成度が低下しており、引き続き対応が求められます。



指標別の達成度の変化(2015→2025)



6

とよたローカルゴール

SDGsは、地方自治体にとって持続可能なまちづくりの観点から、地方創生の実現に資するものであり、第9次豊田市総合計画とも目指す方向を同じくしています。一方で、変化の激しい予測困難な社会においては、まちの持続可能性に加え、市民一人ひとりの心身の豊かさも一層大切

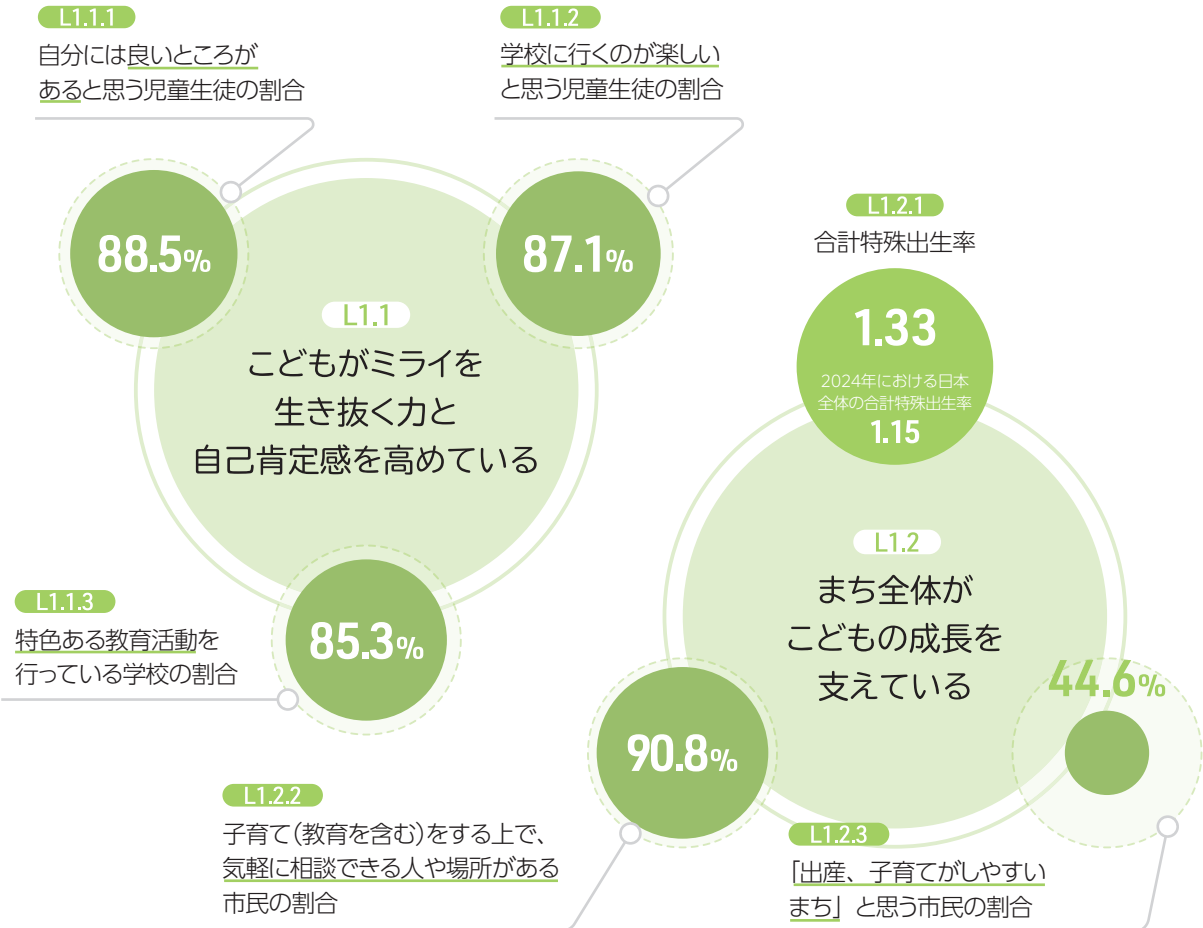
にしたいという思いから、豊田市独自の横断的な目標として「とよたローカルゴール」を設定します。

「とよたローカルゴール」の実現により、豊田市が多くの人々から選ばれ、人口減少に歯止めをかけることで、地域の活性化につながると考えます。



L1 こどもたちが夢と希望を持ち、自らのミライを切り拓く力を育む

持続可能なまちづくりのためには、次世代を担うこどもの育成が必要不可欠です。こどもたちがミライに向かって夢と希望を持ち、心豊かに暮らせるよう、「こども起点」「こども視点」で施策の在り方を考え、まちづくりを推進します。

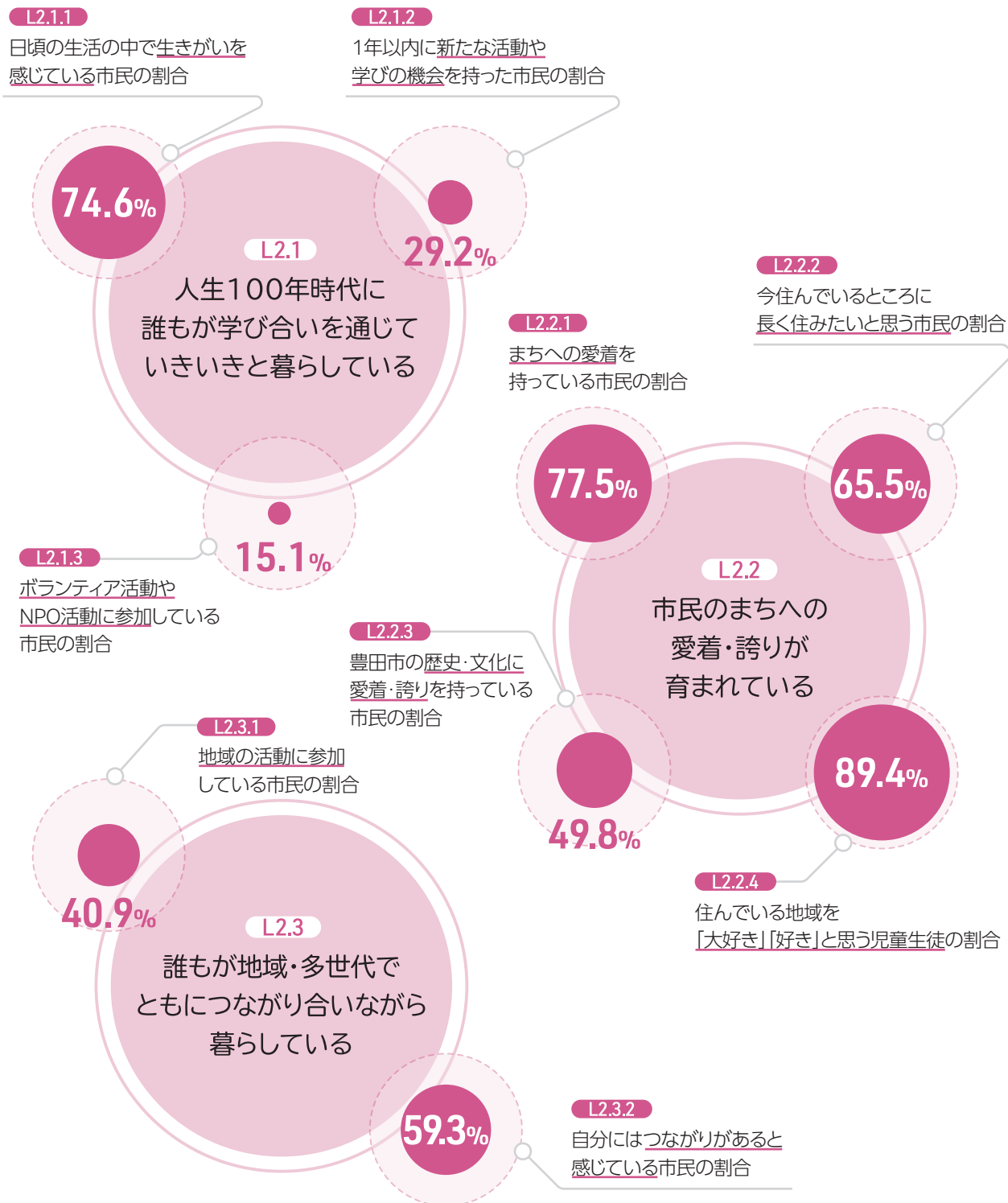


※2025年時点の現状値



L2 誰もがつながり合い、様々な体験と感動を通じて、地域への愛着と誇りを持っている

地域や多世代によるつながり合いの中で、豊田市ならではの様々な体験や感動は、わたしたちの暮らしを豊かなものにしてくれます。豊田市に関わる全ての人が、豊田市や自分が居住する地域に対して愛着や誇りを感じられる地域社会をつくります。



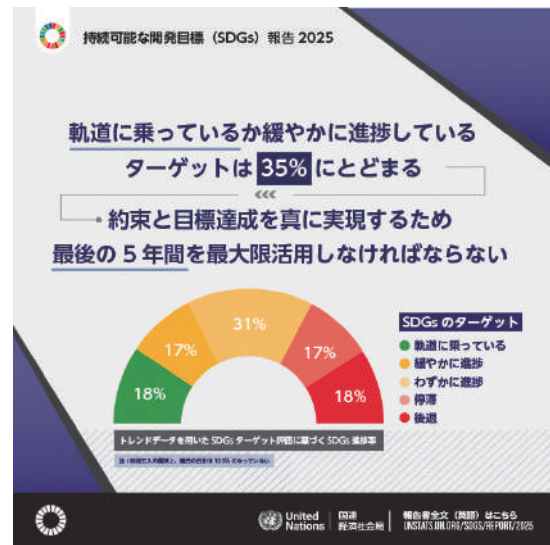
※2025年時点の現状値

7

世界におけるSDGsの“いま”

2015年に国連で採択されたSDGsは、当初は世界各国の協力により、順調に進んできました。しかし、新型コロナウイルス感染症をはじめ、紛争や災害、気候変動などにより、現在は難しい状況が続いています。

2025年時点では、全ターゲットのうち、軌道に乗っている、または緩やかに進捗しているものは35%ある一方、18%のターゲットは後退しています。よりよい世界に向けて、わたしたちに出来ることを考え、行動しましょう。



SDGs報告2025 出典: 国連広報センター

世界でよくなっていること

このような国際状況の中でも、世界全体で着実に前進している分野もあります。ここでは、その一部を紹介します。

4 質の高い教育をみんなに

質の高い教育をみんなに

- 2015年以降で、新たに**1億1,000万人の子ども**もや若者たちが学校に通えるように

7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに

エネルギーをみんなにそしてクリーンに

- 世界の**92%の人が電気にアクセス**できるように
- **再生可能エネルギーは、現在最も急速に成長**しているエネルギー源であり、2025年には石炭をしのぐ主要電力源となる見通し

15 陸の豊かさも守ろう

陸の豊かさも守ろう

- 保全の取組によって、**重要な生態系の保護が2倍**に拡大

3 すべての人に健康と福祉を

すべての人に健康と福祉を

- **2010年以降、HIV*の新規感染は40%近く減少**
※「体を病気から守るチーム(免疫)」を壊してしまうウイルスにかかる病気のこと
- マラリア*の予防により、2000年以降で**22億件の感染が回避、1,270万人の命が救われた**ことに
※特にアフリカなどの暑い地域で、蚊に刺されることでうつるとも大変な病気

5 ジェンダー平等を実現しよう

ジェンダー平等を実現しよう

- **児童婚*は減少傾向**、世界中でより多くの女の子が教育を受け続け、多くの女性が議会に参加するように
※18歳未満のこどもの、本人が希望しない結婚のことです

9 産業と技術革新の基盤をつくろう

産業と技術革新の基盤をつくろう

- インターネット利用率は、2015年の40%から2024年に**68%に急増**。教育、雇用、市民参加の機会に

⚠️ 世界で課題になっていること

その一方で、日本では身近に感じにくいものの、世界全体で重要な課題となっていることもあります。



安全な水とトイレを世界中に

- 何十億もの人々が、安全な飲み水、トイレ、手洗い場所にアクセスできていません



平和と公正をすべての人に

- 2024年には紛争で5万人近くが死亡、同年末までに1億2,000万人超が安全な国や場所に避難しています



貧困をなくそう

- 8億人超が極度の貧しさの中で生活しています



気候変動に具体的な対策を

- 気候変動により、2024年の気温は産業革命より前のころと比べて1.55℃上昇。観測史上、最も暑い年になりました



パートナーシップで目標を達成しよう

- 2023年に低・中所得国※は1兆4,000億米ドル以上のお金を返さなければいけないことに
※1人あたりの所得が欧米や日本よりも低い国のことです

リ・ジュンファ

国連・経済社会問題担当事務次長 李軍華さんからのメッセージ

今は絶望している時ではなく、断固とした行動を起こす時です。私たちには、変革を推進する知識、ツール、パートナーシップがあります。私たちが今必要としているのは、緊急のマルチラテラリズム（多国間主義）の構築、つまり共有の責任と持続的な投資を改めて約束することです。

P26、27の内容は、国連経済社会局(UN DESA) / 2025.7.14.プレスリリースの内容を再構成したものです。

国際連合地域開発センター

UNCRD は、
中部圏で唯一の国連機関です

●UNCRD って何をしているの？

開発途上国の自治体職員や地域づくりを担う人々を対象に、地域開発の能力向上のための研修や調査・研究を行っています。

この冊子も
監修しています

●UNCRDとSDGs

地域開発は、SDGsを実現するための重要なアプローチです。これまで国際首長フォーラム（2025年は豊田市で開催）や研修を通じて培ってきた知見やネットワークを活かし、国内外の自治体によるSDGsの推進の加速化を支援しています。特に、日本の自治体による「自発的自治体レビュー（VLR）」の作成支援を通じて、SDGsの進捗の可視化を図るとともに、優れた取り組み(グッド・プラクティス)を国際社会へ発信しています。

UNCRDについての
お問い合わせ先

〒450-0001 名古屋市中村区那古野一丁目47番1号 名古屋国際センタービル6階

TEL:(052)561-9377 Fax:(052)561-9375 E-mail:uncrd@un.org Web:http://www.uncrd.or.jp/

とよた Toyota City SDGs Handbook

ま る わ が り 白書

ミライのフッターをつくろう


未来都市とよた

2026年4月発行

監修：国際連合地域開発センター(UNCRD)

協力：大日本ダイヤコンサルタント株式会社

本冊子についての
お問い合わせ先

未来都市推進課

〒471-8501 豊田市西町3-60 豊田市役所南庁舎4階

TEL：(0565) 34-6982

E-mail：hybrid-city@city.toyota.aichi.jp